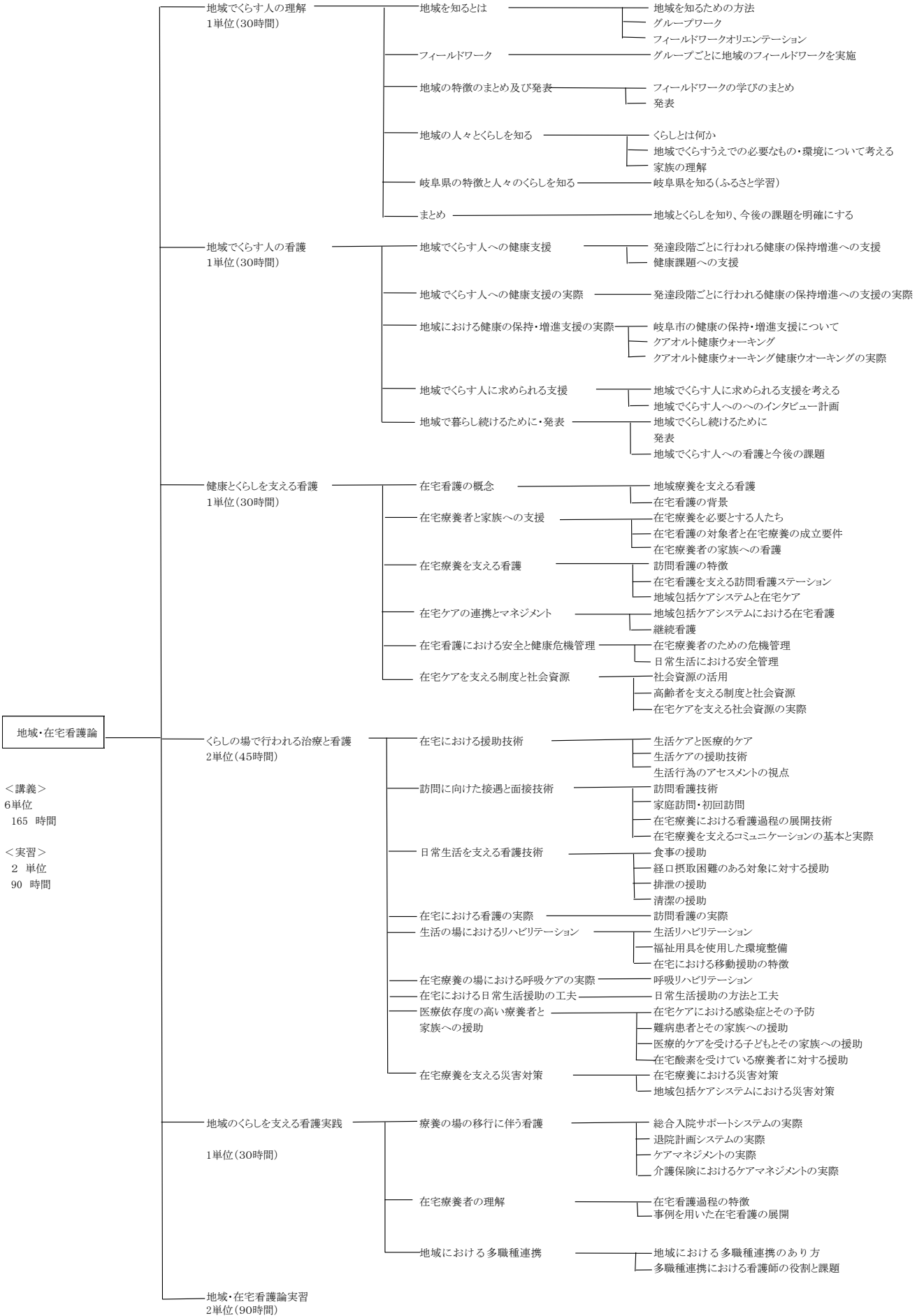


## 第一看護学科 地域・在宅看護論

目 的 看護の対象は、地域で療養・生活する多様な人々であることを理解する。  
また、チーム医療における看護及び多職種の役割を理解し、協働しながら、  
多様な場でくらす人々の健康を支援するための基礎的能力を養う。

- 目 標
- 1 生活の場としての地域（コミュニティ）を理解し、健康との関連性について考えることができる。
  - 2 多様な場でくらす人々の健康保持増進にむけた、健康上の課題を解決する支援について理解できる。
  - 3 地域ケアシステムの目的と機能、及びネットワークの必要性が理解できる。
  - 4 地域でくらす人々を支援するための多職種連携・協働・調整及びチーム医療のあり方を理解できる。
  - 5 地域・在宅看護の対象となる人とその家族について理解し、その特性をふまえた看護について理解できる。
  - 6 個人・家族の多様性（文化・慣習・健康観・価値観・生きる力）を理解し、尊重した態度で接することができる。

地域・在宅看護論 構成図



<講義>  
6単位  
165 時間

<実習>  
2 単位  
90 時間

授業科目	地域でくらす人の理解	担当教員	専任教員☆ ① 外部講師	単位数	1	時期	1年次 5月～10月		
			② 岐阜県統計課職員	時間数	30				
目的と目標	地域の人々の暮らしを知り、暮らしが健康に与える影響を考える。 1 人間が地域でくらすとはどのようなことかを考える。 2 地域にくらす人々の生活を理解し、地域とそこにくらす人々の健康との関連を考える。 3 自身がくらす地域に興味・関心が持てる。								
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員			
1	地域を知るとは	(1) 地域を知るための方法			講義 演習	専任教員			
2		(2) グループワーク							
3		(3) フィールドワークオリエンテーション							
4		フィールドワーク計画							
5	フィールドワーク	(1) グループごとに地域のフィールドワークを実施			演習 演習	外部講師 (岐阜県統計課職員)			
6									
7	地域の特徴の まとめ及び発表	(1) フィールドワークの学びのまとめ			演習			専任教員	
8									
9									
10	(2) 発表								
11	地域の人々とくらし を知る	(1) くらしとは何か			講義 演習	外部講師 (岐阜県統計課職員)			
12		(2) 地域でくらすうえでの必要なもの・環境について考える							
13		(3) 家族の理解							
14	岐阜県の特徴と人々の暮らしを知る	(1) 岐阜県を知る (ふるさと学習)			講義			外部講師 (岐阜県統計課職員)	
15		①岐阜県の特徴 (土地や自然)							
	②人口の推移、今後の予測								
	③岐阜県民の健康について								
	まとめ (1h) レポート試験 (1h)	(1) 地域とくらしを知り、今後の課題を明確にする			演習 試験	専任教員			
評価方法	GWの取り組み姿勢 20点、レポート試験 80点 合計 100点 *再試験の場合、レポート試験 100点で評価する。								
教科書 参考文献	講師が配布する資料								
事前準備や 受講要件等	適宜、提示する課題について、期限を厳守して提出すること。 学校で提示する傷害保険に加入しておくこと。								
☆担当教員の 実務経験	①医療機関に勤務した経験を活かした授業を展開する。								

授業科目	地域でくらす人の看護	担当教員	①専任教員☆ 外部講師☆	単位数	1	時期	2年次 4月～7月
			② 寺田道夫 ③ 岩田利博 ④ 保健師 ⑤ 医療機関看護師 ⑥ 高屋明日香	時間数	30		
目的と目標	<p>地域でくらす人がどのように健康の保持増進をしながら生活しているのかを理解し、地域でくらし続けるために必要な看護について学ぶ。</p> <p>1 地域でくらす人の健康保持増進、疾病予防のための保健活動について理解できる。</p> <p>2 発達段階ごとに生じやすい健康課題について理解し、健康課題を解決するための支援のあり方を考える。</p> <p>3 地域でくらす人へのインタビューを通して、地域でくらし続けるための必要な看護と課題について考えることができる。</p>						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1 2 3	地域でくらす人への健康支援	(1) 発達段階ごとに行われる健康の保持増進への支援 (2) 健康課題への支援 (グループワーク)		講義 演習	専任教員		
4 5 6 7	地域でくらす人への健康支援の実際	(1) 発達段階ごとに行われる健康の保持増進への支援の実際 ①働く人への健康支援活動メンタルヘルス ②成人を対象とした健康管理の実際 ③看護師の健康問題と健康管理の実際 ④高齢者への健康支援活動		講義 講義 講義 講義	外部講師 (寺田道夫) 外部講師 (保健師) 外部講師 ( ) 外部講師 (岩田利博)		
8 9	地域における健康の保持・増進支援の実際	(1) 岐阜市の健康の保持・増進支援について (2) クアオルト健康ウォーキング 運動療法を基に考察された心身の健康づくり ウォーキングを学ぶ (3) クアオルト健康ウォーキングの実際		講義 演習	外部講師 (高屋明日香)		
10 11	地域でくらす人に求められる支援	(1) 地域でくらす人に求められる支援を考える (2) 地域でくらす人へのインタビュー計画		演習	専任教員		
12 13 14 15	地域でくらし続けるために (3時間) 発表	(1) 地域でくらし続けるために ～インタビューから考える～ (2) 発表 (3) 地域でくらす人への看護と今後の課題		演習 演習			
	試験 (1時間)	まとめ 筆記試験					
評価方法	筆記試験 50点 レポート試験 50点 合計100点 *再試験の場合、筆記試験50点、レポート試験50点で評価する。						

<p>教科書 参考文献</p>	<p>医療福祉総合ガイドブック（医学書院） 国民衛生の動向（厚生労働統計協会）他、配布資料</p>
<p>事前準備や 受講要件等</p>	<p>適宜、提示する課題について、期限を厳守して提出する。</p>
<p>☆担当教員の実 務経験</p>	<p>①⑤看護師として医療機関等に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ② 臨床心理士として勤務した経験を活かした授業展開をする。 ③ 社会福祉士として地域包括支援センターに勤務した経験を活かした授業展開をする。 ④ 保健師として勤務した経験を活かした授業展開をする。 ⑥ 行政職員として勤務した経験を活かした授業展開をする。</p>

授業科目	健康とくらしを支える看護	担当教員	①専任教員☆ 外部講師☆	単位数	1	時期	2年次 5月～9月
			②三島 有子	時間数	30		
目的と目標	<p>地域・在宅看護論の対象と看護の基盤となる概念を理解し、地域で生活・療養する人とその家族を支える保健・医療・福祉についての知識を学ぶ。</p> <p>1 地域・在宅看護の意義と特徴について理解できる。</p> <p>2 地域・在宅看護の対象となる地域で生活・療養する人とその家族の特徴が理解できる。</p> <p>3 家族の健康管理の必要性と家族の機能について理解できる。</p> <p>4 療養者を抱える家族の介護負担と危機的状況が理解できる。</p> <p>5 在宅ケアを支える制度と社会資源が理解できる。</p>						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1 2	在宅看護の概念	<p>(1) 地域療養を支える看護</p> <p>① 在宅看護とは (在宅ケア・地域看護・訪問看護の概要)</p> <p>(2) 在宅看護の背景</p> <p>①日本の在宅看護の変遷と今後の課題</p>			講義 演習	専任教員	
3 4 5	在宅療養者と家族への支援	<p>(1) 在宅療養を必要とする人たち</p> <p>① 発達段階からみた対象者の特徴</p> <p>② 健康レベルからみた対象者の特徴</p> <p>③ 障害からみた対象者の特徴</p> <p>(2) 在宅看護の対象者と在宅療養の成立要件</p> <p>(3) 在宅療養者の家族への看護</p> <p>① 家族とは (家族システム理論)</p> <p>② 家族の介護力のアセスメントと調整</p> <p>③ 在宅療養者の家族への看護</p>			講義		
6 7 8	在宅療養を支える看護	<p>(1) 訪問看護の特徴</p> <p>① 訪問看護とは</p> <p>② 訪問看護制度と現状</p> <p>③ 在宅看護特有の倫理問題</p> <p>(2) 在宅看護を支える訪問看護ステーション</p> <p>① 訪問看護の実践</p> <p>(4) 地域包括ケアシステムと在宅ケア</p> <p>① 地域包括ケアシステムの体制</p> <p>② 在宅ケアのシステムと多職種チーム</p> <p>③ 在宅ケアの目的と看護の特徴</p>			講義	外部講師 (三島 有子)	
9	在宅ケアの連携とマネジメント	<p>(1) 地域包括ケアシステムにおける在宅看護</p> <p>① 看護が担うケースマネジメント・ケアマネジメントの概要</p> <p>② 介護保険制度におけるケアマネジメント</p> <p>③ ケアマネジメントの過程</p>					

回数	学習課題	内 容	方 法	担当教員	
10	在宅看護における 安全と健康危機 管理  在宅ケアを支える 制度と社会資源 (5h)  試験 (1時間)	(2) 継続看護	講義	外部講師 (三島 有子)	
11		① 入退院時における医療機関と訪問看護の連携 ② 退院時看護要約について	演習		
12		(1) 在宅療養者のための危機管理 (2) 日常生活における安全管理	講義	専任教員	
13		(1) 社会資源の活用 (1h)			
14		① フォーマル・インフォーマル資源	演習		
15		② 人的・物的資源			
		(2) 高齢者を支える制度と社会資源 (3) 在宅ケアを支える社会資源の実際 *夏季休業課題：「居住地域の社会資源調査」 ①演習 ②発表			発表
		(1) 筆記試験	試験	専任教員	
評価方法		筆記試験 100点 (1～5回、13～15回：40点、6～12回：60点)			
教科書 参考文献		在宅看護論① 地域療養を支えるケア (MC メディカ) 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 (MC メディカ) 医療福祉総合ガイドブック (医学書院) 国民衛生の動向 (厚生労働統計協会) 他、 配布資料			
事前準備や 受講要件等		適宜、提示した内容について、期限を厳守して提出する。			
☆担当教員の 実務経験		①②看護師として医療機関等に勤務した経験を活かした授業展開をする。			

授業科目	くらしの場で行われる 治療と看護	担当教員	①専任教員☆ 外部講師☆ ②三島有子 ③野崎加世子 ④大羽正美 ⑤理学療法士 ⑥浅野崇 ⑦高橋陽子 ⑧丹羽佳恵 ⑨長縄保宏	単位数	2	時 期	2年次 10月～3月
			時間数	45			
目的と目標	<p>地域・在宅看護を展開できるための看護師の姿勢及び日常生活援助技術や、教育的なかかわりについて学び、安全に実施できるための方法と留意点を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 生活の場に訪問する際に必要な準備とマナーについて理解し、信頼関係形成に必要な姿勢と態度がわかる。</li> <li>2 在宅療養者の日常生活を生活行為として総合的にとらえ、日常生活への援助技術や教育的なかかわり方について考えることができる。</li> <li>3 福祉用具の活用に向けた支援方法を理解する。</li> <li>4 在宅で医療処置を受けながら生活する療養者とその家族を支援するための援助方法が理解できる。</li> <li>5 在宅で医療処置を受けながら生活する療養者とその家族を理解し、安全管理及び予防的ケアの重要性を理解する。</li> </ol>						
回数	学習課題	内 容		方法	担当教員		
1	在宅における援助技術	(1) 生活ケアと医療的ケア (2) 生活ケアの援助技術 (3) 生活行為のアセスメントの視点		講義 演習	外部講師 (三島 有子)		
2	訪問に向けた接遇と 面接技術	(1) 訪問看護技術 (2) 家庭訪問・初回訪問 (3) 在宅療養における看護過程の展開技術		講義	外部講師 (三島 有子)		
3		(4) 在宅療養を支えるコミュニケーションの 基本と実際			外部講師 (野崎加世子)		
4					専任教員		
5	日常生活を支える 看護技術	(1) 食事の援助 ①在宅における食生活上のアセスメント ②自立のための自助具の利用		講義	専任教員		
6		(2) 経口摂取困難のある対象に対する援助 ① 中心静脈栄養法 ② 経管栄養法（経鼻、胃瘻、腸瘻）					
7		(3) 排泄の援助 ①在宅における排泄アセスメント ②自立のための排泄用具の活用 ③排便困難な対象への排便コントロールの 援助		講義	専任教員		
8		(4) 清潔の援助 ①在宅における清潔ケアの特徴 ②清潔保持のための家族への指導 ③在宅における清潔援助の方法		講義	専任教員		
9	在宅における看護の実際	(1) 訪問看護の実際		講義	外部講師 (大羽正美)		
10	生活の場における リハビリテーション	(1) 生活リハビリテーション ① リハビリテーションの考え方 ② 生活環境の調整（住宅改修） (2) 福祉用具を使用した環境整備 (3) 在宅における移動援助の特徴		講義	外部講師 (浅野 崇)		
11	在宅療養の場における 呼吸ケアの実際	(1) 呼吸リハビリテーション		講義	外部講師 (理学療法士)		

回数	学習課題	内 容	方法	担当教員
12 13	在宅における 日常生活援助の工夫	(1) 日常生活援助の方法と工夫	講義 演習 発表会	専任教員
14 15 16 17	医療依存度の高い療養者 と家族への援助	(1) 在宅ケアにおける感染症とその予防 ① 対応のポイント ② 在宅療養者によくみられる感染症  (2) 難病患者とその家族への援助 ① 難病とは ② 難病支援システム ③ ALS 患者の看護 ④ 人工呼吸器使用時の看護	講義  講義	
18		(3) 医療的ケアを受ける子どもと その家族への援助	講義	外部講師 (高橋陽子)
19 20		(4) 在宅酸素を受けている療養者に対する 看護 ① 在宅酸素を受ける療養者の看護の実際 ② 災害時の対応と看護	講義 演習	外部講師 (丹羽佳恵)
21 22	在宅療養を支える 災害対策	(1) 在宅療養における災害対策 (2) 地域包括ケアシステムにおける災害対策	講義	外部講師 (長縄保宏)
23	試験 (1 時間)	(1) 筆記試験	試験	専任教員
評価方法	筆記試験 100 点			
教科書 参考文献	在宅看護論① 地域療養を支えるケア (MC メディカ) 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 (MC メディカ) 配布資料			
事前準備や受 講要件等	基礎看護学、老年看護学で関連する部分の復習			
☆担当教員の 実務経験	①～④看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ⑤～⑥理学療法士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ⑦～⑨看護師として施設や企業に勤務した経験を活かした授業展開をする。			

授業科目	地域のくらしを支える 看護実践	担当教員	① 専任教員☆ 外部講師	単位数	1	時 期	3年次 4月～11月
			② 原 啓子 ③ 井奈波秀 ④ 中川みのり ⑤ 高木一充	時間数	30		
目的と目標	<p>地域で生活する人々とその家族の看護について学ぶ。</p> <p>1 在宅看護の展開のプロセスが理解できる。</p> <p>2 ケアマネジメントを含めた在宅看護の実際を理解できる。</p> <p>3 施設看護から在宅看護への継続の実際を理解できる。</p> <p>4 地域における多職種連携について理解し、支援の実際と課題について考えることができる。</p>						
回数	学習課題	内 容			方法	担当教員	
1	療養の場の移行に伴う 看護	(1) 総合入院サポートシステムの実際			講義	非常勤講師 (原 啓子)	
2		(2) 退院計画システムの実際			講義	非常勤講師 (井奈波秀)	
3		(3) ケアマネジメントの実際			講義	非常勤講師 (中川みのり)	
4		(4) 介護保険におけるケアマネジメントの実際				講義	非常勤講師 (高木一充)
5	在宅療養者の理解	(1) 在宅看護過程の特徴				専任教員	
6		(2) 事例を用いた在宅看護の展開				( )	
7							
8	地域における多職種連 携 (15 時間)	(1) 地域における多職種連携のあり方			演習 (他校と の合同)		
9		① 多職種連携における看護師の役割					
10		② 他職種の役割と活動内容					
11		③ 事例における多職種連携					
12							
13							
14		(2) 多職種連携における看護師の役割と課題 発表					
15	筆記試験 (1 時間)	(1) 筆記試験			試験		
評価方法	<p>筆記試験 50 点 成果物 50 点 合計 100 点</p> <p>*再試験の場合、筆記試験 50 点、レポート試験 50 点で評価する。</p>						
教科書 参考文献	<p>在宅看護論① 地域療養を支えるケア (MC メディカ)</p> <p>在宅看護論② 在宅療養を支える技術 (MC メディカ)</p> <p>強みと弱みからみた 在宅看護過程＋総合的機能関連図 (医学書院)</p> <p>適宜、提示する課題について、期限を厳守して提出する。</p>						
事前準備や 受講要件等	<p>在宅看護の事例を用いて学習する。</p> <p>提示する課題については期限を厳守して提出する。</p>						

☆担当教員 の実務経験	①護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②③④看護師として医療機関や施設に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ⑤ケアマネージャーとして施設に勤務した経験を活かした授業展開をする。
----------------	--